

“浜岡原発”の廃炉作業を見る

「世界一危険な原発」と指摘される浜岡原発の廃炉作業の状況と再稼働に向けた安全対策工事の現場を視察する機会を得ました（2025年7/1）。

田嶋・山崎・宮川国会議員と3名の県議会議員、そして鎌ヶ谷市議会議員と原子力資料情報室の松久保さんと藤代9名の参加です。

「浜岡原子力館」にて中部電力の職員から廃炉作業に入っている1号機2号機、再稼働に向けた3号機4号機の対応、これから申請する5号機それぞれの説明を受けました。その後廃炉作業中の1・2号機の中のジーゼル発電機（廃棄物）撤去状況を見て、更に放射線管理区域内のタービン（クリアランス廃棄物）の廃棄作業現場へ防護服に着替えての視察をしました。また敷地内の再稼働に向けた防波堤増強現場・可搬式設備などの現場も視察しました。



南海トラフによる東南海地震、南海地震と連動して東海大地震の可能性が指摘される中、その震源の真上にある浜岡原発。2011年3・11の東日本大地震後すぐに菅政権は浜岡のすべての原発の運転を停止させています。それゆえ世界一危険な原発と言われるのです。

浜岡原発は御前崎市に位置して5つの沸騰水型軽水炉（BWR）原発があります。そのうち1976年稼働の1号機・1978年稼働の2号機は2005年以降の耐震裕度向上工事に際し検討した結果「廃炉」とすべく2009年運転停止し、今廃止措置計画が実行されています。

又、3・4・5号機のうち3号機（1987年稼働110万kw）・4号機（1993年稼働113.7万kw）は再稼働へ向けた新規制基準への適合性確認審査中であり5号機（2005年138万kw）は申請準備中とのことです。

廃炉作業

1・2号機の廃炉措置は4段階に分けて34年かけて実施の予定。



《第一段階（2009～）》：燃料、使用済み燃料を取り出しこれを3・4号機のプールに収めてあるとのこと。プールの許容量の87%（6542本）になってます。放射線管理区域以外の施設の解体撤去（放射性でない廃棄物）。

《第二段階（2015～）》：原子炉領域周辺施設の解体（タービン等・放射性廃棄物として取り扱う必要のないクリアランス廃棄物）

《第三段階（2024～）》：現在の段階です。

原子炉領域の解体撤去。放射線管理区域内です。原子炉圧力容器上蓋の解体も始めているとのこと。：この領域のものは低レベル放射性廃棄物として処理されます。（汚染度でL1、L2、L3）

《第四段階（2036～）》：建屋の解体

1号機2号機2機で廃棄物は約45万t出てくる。原子炉内からの低レベル放射性廃棄物は2万t（4%）。タービンなど放射性物質が0.01msv/年以下のクリアランス廃棄物

が7.8万t（17%）、廃棄物対象は35.4万t（78%）とのこと。

今、クリアランス廃棄物の再利用先が見つからず、当面原発敷地内側溝の蓋に使用しているとのこと。

又低レベル廃棄物はその処理先が決まっていないのが根本的問題になってます。

職員の説明では1・2号機の廃棄事業費は併せて900億円とのこと。

現場視察として放射線管理区域の1・2号機のタービン解体現場には防護服に着替えての視察になりました。その現場には一日120～130人の作業員が入って着々と進んでいることが分かったが、数十年かけて廃炉にしてもその低レベル廃棄物の処理先が定まらないといった「トイレのないマンション」になってしまっているのです。原発の最大の欠点で問題点がここでも表れてきているようです。

3・4号機再稼働に向けての工事現場も見せてもらいました

○浜岡原発の前面は砂浜なので沖600mの取水口から取水し、冷却しています。また、港は10km先の御前崎港を使い材料等を陸路車で運んでいるとのことでした。

○耐震性については耐震向上時には1000ガル対応だったが、新規制基準で3・4号機は1200ガルに。5号機は地下の地質の悪さから2094ガル対応になってます。排気筒の補強状況も見ることができました。震源の真上に原発を立てていていいのだろうか？その問題の根本的解決方法はないようです。



防波壁

改良盛土

○津波対策としての防波堤は現在22mですが審査会からの指摘では津波高25.2mで不十分。上の部分4mをカットして10m分をプラスして28mにするとのこと。（これからの工事です）

又、敷地の脇を流れる「新野川」を津波が遡上することを心配して敷地の両脇は24mまでの盛土をしてました。

○クリアランス廃棄物の貯蔵建屋。軽油を材料にしたガスタービン施設なども敷地の高いところ（40m）に設置してありました。

使用済み燃料がやっぱり大きな問題

高レベル放射性廃棄物である使用済み燃料は3・4・5号機のプールの中に6542本入っており許容量の87%になっていることの問題点は、参加者すべての問題意識でした。

松久保さんは「乾式キャスク」での保存のほうがいいのではと提案しました。浜岡では4000本の乾式保存を検討中とのこと。この使用済み燃料を再処理するのは六ヶ所再処理施設ですが27回も延期していまだに再処理で出てくる高レベル廃液のガラス固化ができてません。“再処理に入れない＝トイレのない”原発・核燃料サイクルです。

東海地震の震源の上にある原発にあえて固執するのはなぜ？

1・2号機は耐震性の問題で経済性がないといって廃炉措置に決定されたなら3・4・5号機もこれ以上の費用をかけ地震の・津波の危険性に対処することが果たして経済合理性の点からもまともなのだろうか？

再生エネルギーによる地域分散的エネルギー構造を作っていくことがこれからの方向性だと思われるのだが・・・